

科 目	単 位（時間）	担 当 者	授業時期
地域・在宅援助論Ⅲ	1 単位 (15 時間)	宮本千絵 (臨床経験 12 年)	4 年前期
【学習目標】 1 在宅で療養する対象および家族を理解し、地域看護の必要性や社会資源の活用の重要性を学ぶ。 2 対象に合わせた看護を実践するために、事例をもとに実践能力を身につける。 3 自己の体験や学習から、在宅看護、地域看護における他職種との連携、看護師の役割について考え、在宅看護を総合的に理解する。 【授業の進め方】 講義、演習、個人ワーク、グループワーク、レポート発表 【授業スケジュール】 1 在宅で療養する対象者とその家族 2 地域で生活する人々の健康維持・増進するための保健師活動 3 個人ワーク 在宅看護を実践するための事例展開 4・5 グループワーク 在宅看護を実践するための事例展開 6 演習 在宅看護における看護技術 7 演習 訪問時マナー（接遇） 8 訪問看護ステーションの役割と介護保険制度の概要 9 市町村保健センターの役割・地域保健法 10・11 グループワーク 在宅看護における看護師の役割、療養者・家族の思い、社会資源、 12・13 グループワーク 地域看護における多職種との連携、ケアマネジャーの役割、 14・15 「地域包括ケアシステムにおける訪問看護師の役割について考えたこと」のレポート発表会 【教科書】 学習内容関連の教科書 【参考書】 学習内容関連書 【評価方法】 出席状況：出席時間と参加態度（20％）・演習評価（30％）・レポート（50％）			

科 目	単位（時間）	担 当 者	授業時期
地域・在宅援助論Ⅳ	1 単位 (15 時間)	西村浩太郎 (病院看護師)	4 年後期
【学習目標】 在宅における医療管理を必要とする人とその看護について理解する 【授業の進め方】 講義 【授業スケジュール】 在宅における特徴的な看護と支援 1 薬物療法 2 経管栄養・胃瘻法 3 呼吸ケア 4 排尿ケア・ストマケア 5 腹膜透析（CAPD）・疼痛管理 6 褥瘡管理 7 事例検討 8 試験 【教科書】 ナーシンググラフィカ 21 地域療養を支える技術 メディカ出版 【参考書】 配布資料 【評価方法】 筆記試験			

科 目	単 位（時間）	担 当 者	授業時期
成人援助論Ⅴ (終末期にある患者の看護・緩和ケア)	1 単位 (30 時間)	齋藤 彰子 (認定看護師) 江夏 一彰チャプレン 山本 友美 (認定看護師)	4 年前期
【学習目標】 終末期の対象のトータルペインを学び、終末期における患者・家族に対する看護の基本、方法を理解する。 【授業の進め方】 講義、グループワーク、演習 【授業スケジュール】 1 緩和ケアの現状と展望 緩和ケアの対象者の広がり (さまざまな疾患) 2 緩和ケアにおけるチームアプローチ 3 緩和ケアにおけるコミュニケーション 4 緩和ケアにおける倫理的課題 5 全人的ケアの実践 (身体的ケア、心理的ケア) 6 全人的ケアの実践 (社会的ケア、スピリチュアルケア) 7 緩和ケアの広がり 8 臨死期のケア 9 家族のケア 10 医療スタッフのケア 11 緩和ケアに関する教育、緩和ケアにおける研究 12 ホスピス・緩和ケア病棟について 13 // 14 // 15 試験 【教科書】 系統看護学講座別巻 緩和ケア 医学書院 【参考書】 【評価方法】 筆記試験			

科 目	単 位（時間）	担 当 者	授業時期
小児援助論Ⅲ	1 単位 (15 時間)	石原 克真（病院認定看護師） 矢野 恵理（病院認定看護師） 小笠原 真織（病院専門看護師） 小林 佳菜絵（病院看護師）	4 年後期
【学習目標】 さまざまな状況にある小児及びその家族への看護について理解できる。 【授業の進め方】 講義、グループ討議 【授業スケジュール】 1 救急救命処置が必要な小児とその家族への看護 2 周手術期における小児とその家族への看護（術前～術中） 3 周手術期における小児とその家族への看護 4・5 慢性期にある小児とその家族への看護（小児慢性期疾患と成人移行期支援） 6 エンド・オブ・レイフケア 7 医療ケアを必要として退院する小児とその家族への看護 8 試験 【教科書】 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 【参考書】 発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図 第3版 医学書院 こどもの病気の地図帳 講談社 【評価方法】 筆記試験			

科 目	単 位（時間）	担 当 者	授業時期								
精神援助論Ⅲ	1 単位 (15 時間)	ペタス 裕子（臨床経験 16 年） 柳澤 美紀（専門看護師） 吉池 慎一（精神保健福祉士） 影山 真由美（精神訪問看護師）	4 年全期								
【学習目標】 精神領域の専門看護の機能と役割について学ぶ。また事例を通して精神障害者の地域生活を支えるための支援を学ぶ。 【授業の進め方】 講義、グループワーク 【授業スケジュール】 1 あらゆる場に関わる精神看護（GW） 2 退院支援の実際（事例を通して） 3 精神科看護師に望むこと（事例を通して、権利擁護の視点） 4 あらゆる場に関わる精神看護（発表） 5 精神科訪問看護の実際 6 リエゾン精神看護の機能と役割 7 リエゾン看護の活動の実際 8 試験 【教科書】 <table> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野</td> <td>精神看護の基礎</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野</td> <td>精神看護の展開</td> <td>医学書院</td> </tr> </table> 【参考書】 なし 【評価方法】 筆記試験				系統看護学講座	専門分野	精神看護の基礎	医学書院	系統看護学講座	専門分野	精神看護の展開	医学書院
系統看護学講座	専門分野	精神看護の基礎	医学書院								
系統看護学講座	専門分野	精神看護の展開	医学書院								

科 目	単 位（時間）	担 当 者	授業時期
家族看護論	1 単位 (15 時間)	関原 亮平（認定看護師） 花岡 雅子（認定看護師） 湯本 知枝（認定看護師） 片塩 幸 （認定看護師）	4 年前期
【学習目標】 システムとしての家族を理解し、家族看護の基本的な考え方を学ぶ。 【授業の進め方】 講義、グループワーク 【授業スケジュール】 - 事例検討 終末期患者の家族看護 〃 - 事例検討 小児・精神科疾患患者家族の看護 〃 - 事例検討 高齢者・在宅療養・退院支援患者の家族 〃 - まとめ（家族看護の実践報告と学びを発表） - 試験 【教科書】 系看 別巻 家族看護学 医学書院 【参考書】 家族看護学 改訂第二版 南江堂 【評価方法】 筆記試験			

科 目	単 位（時間）	担 当 者	授業時期
看護管理	1 単位 (15 時間)	佐藤 千鶴（看護部長） 戸谷 佳美（副看護部長） 柴本 幸子（副看護部長）	4 年後期
【学習目標】 質の高い組織的看護サービスの提供のために、必要な看護管理の基礎的知識を学ぶ。 【授業の進め方】 講義、グループワーク、発表 【授業スケジュール】 1 看護とマネジメント 2 看護ケアのマネジメント 患者の権利、安全管理 3 看護サービスのマネジメント 4 看護ケアのマネジメント チーム医療、看護業務の実践 5 マネジメントに必要な知識と技術 6 看護職のキャリアマネジメント 7 看護を取り巻く諸制度 8 試験 【教科書】 系統看護学講座 統合分野〔1〕 看護管理 医学書院 【参考書】 なし 【評価方法】 筆記試験			

科 目	単 位（時間）	担 当 者	授業時期
災害看護	1 単位 (20 時間)	峯村朝子（病院看護師） 古村英稔（病院看護師）	4 年後期
【学習目標】 災害サイクルのどの段階でも看護の対象となることを理解し、災害看護活動を学ぶ 災害医療におけるトリアージについて学び、演習をとおして理解を深める 【授業の進め方】 講義、グループワーク、実技演習 【授業スケジュール】 1 災害医療について 2 DMATについて 普段の取り組みについてグループワーク 3 災害サイクルに沿った医療と看護 災害時の心のケア PTSD 4 災害時の活動についてグループワーク 5 世界の災害状況 6 トリアージとは 7 トリアージ演習 8 救急看護概論 BLS 9 BLS演習 10 試験 【教科書】 系統看護学講座 専門分野 災害看護学・国際看護学 医学書院 【参考書】 配布資料 【評価方法】 筆記試験			

科 目	単 位（時間）	担 当 者	授業時期
国際看護	1 単位 (15 時間)	小原 真理子 (大学教授)	4 年後期
【学習目標】 看護に関する国際的な組織について理解し、看護学の国際化に関する現状と課題について理解する 【授業の進め方】 講義 グループワーク 【授業スケジュール】 1 国際看護学とは 2 グローバルヘルス 3 国際協力の仕組み 4 国際協力と看護 5 国際救援と看護 6 // 7 21 世紀の国際協力の課題 8 試験 【教科書】 系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 医学書院 【評価方法】 筆記試験			

科 目	単 位 (時間)	担 当 者	授業時期
総合看護	2 単位 (45 時間)	町田 久美 (臨床経験 5 年)	4 年全期
【学習目標】 臨床現場で起こりうる突発的状況を疑似体験し、その状況で対応・判断・看護技術の実施など看護実践能力の統合を図る。 1 臨床現場の模擬的な状況に対して、事前学習や既習の知識・技術を活用し対応する。 2 シミュレーションでの経験を主体的に振り返り、より良い実践になるための課題を明確にする。 3 学びや気づきをグループで共有し、学習を深め、知識・技術の統合を図る。 【授業の進め方】 講義・個人ワーク・シミュレーション・デブリーフィング・リフレクション グループ学習・学習発表 【授業スケジュール】 1 看護のためのシミュレーション教育とは 2 シミュレーションⅠ（安全な薬物投与） 3 シミュレーションⅡ（安全な車いす移動と検査前の看護） 4 シミュレーションⅢ（高齢者の観察と症状アセスメント） 5 // 6 // 7 シミュレーションⅣ（複数患者の対応） 8 // 9 // 10 シミュレーションⅤ（突発的状況時の対応） 11 // 12 デブリーフィング（体験の振り返り、学習課題の明確化） 13 グループ学習 14 // 15 // 16 // 17 // 18 // 19 学習発表会準備・リハーサル 20 学習発表会 21 // 22 // 23 // 【教科書】 各看護技術、形態機能学等の学習内容関連書 【評価方法】 レポート（7割）、学習ファイル（2割）、授業態度の総合評価＊（1割） ＊グループ学習や学習発表会での参加状況、身支度、持ち物、提出物の期限なども含む			